

【保育実践論文(ソニー幼児教育支援プログラム) 審査講評】
2024年度 優秀園 審査委員特別賞
社会福祉法人芽豆羅の里 幼保連携型認定こども園
めずらこども園

園の教育・保育の中心に「科学する心を育てる」を添え、16年という長きに亘り、研究を重ねて来られたことに敬意を表します。論文では「科学する心」を「めずらこども園探究サイクル」として図式化し、「発見」「興味・関心」「試行錯誤」「失敗・成功」の循環であることを明示しながらも、丁寧に追跡・記録された1歳と4歳の事例から、それらが必ずしも規則的に進行するものではないという気付きを示されました。子どもたちの「おもしろい！」からはじまる試行錯誤の拡がりを見守ることを“喜び”とし、子どもの「自分がしたいこと」を「自分がしたい方法」で主体的に取り組める保育の工夫、環境づくりに力を注がれる保育者の思いが伝わります。

特に、1歳児の事例は「水のおぼけ」の発見からそれを再現させたいと繰り返す様子、牛乳の入ったコップを倒したことでたまたま見つけた「マル」をさまざまな場面で探して楽しむ姿など、低年齢の子どもが日常の何気ない遊びの中で探究していることがよく伝わってきます。言葉では表現されていないものの、発見と驚きと追究が豊かに展開され、それを1歳児なりに周囲と共有（伝播）していく様子がわかります。園を訪問して行われる現地調査の報告でも、低年齢の子どもが、自らの興味に没頭する場面を多く見ることができました。いずれ本格的な「探究」へとつながっていくであろう乳幼児期の大切な体験やその感じ方が示唆されており、優秀園 審査委員特別賞として高く評価しました。

論文には「子どもたちの遊びの連続性を大人までつなげる」とありました。乳幼児期に育つ「科学する心」は、子どもたちが明るい未来を切り拓いていく力でもあります。これからも子どもたちの「おもしろい！」から始まる世界を見つめ、優れた実践を重ねていただけることを期待しています。